

社会情勢に応じた消防行政



福岡市消防局長 山下 周成

福岡市は、博多湾や緑の山々などの恵まれた自然と、豊かな歴史に育まれた都市です。「令和元年度 市政に関する意識調査」においては、95.4パーセントの市民が、福岡市を「住みやすい」と答えるなど、歴史や文化、豊かな自然環境と充実した都市機能などの様々な財産に恵まれ、国内外から高く評価されています。

有史以前から大陸との歴史を持つ福岡・博多は、地理的にも、歴史的にもアジアとの深いつながりの中で育まれました。アジアが世界における重要性を増しつつある今、経済的な成長と安全・安心で質の高い暮らしのバランスがとれたコンパクトで持続可能な都市として、世界中の人が住みたい、行きたい、働きたい「アジアの交流拠点都市」という都市像を掲げ、市政を推進しております。

消防局におきましては、この都市像の実現に向け、安全・安心で良好な生活環境を確保するため「災害に強いまちづくり」を目指し、「災害防ぎょ活動体制の充実」、「救急体制の充実」、「防火・防災体制の充実」の3項目を柱とした「消防局運営方針」に基づき、消防・救急医療体制の充実を図っております。

具体的な取り組みといたしましては、消防隊の災害対応能力の向上のため、福岡市消防学校に備えた「実火災体験型訓練施設」などを活用した効果的な実戦訓練を行うとともに、防火体制の充実を図る観点からは、人命危険が高い防火対象物等に重点的に指導を行う取組みを推進しております。また、超高齢社会を見据え、高齢者施設等の職員に対し、病気やケガの予防についての講習会を積極的に実施しております。

さらに、都心部における救急需要対策や災害即応体制強化のため、救急隊の増隊や中央消防署平尾出張所の移転整備を進めております。

さて、先般の「令和2年7月豪雨」では、全国各地で大きな被害が生じ、消防庁長官の指示により全国から出動した緊急消防援助隊が、県内消防本部とともに懸命に人命救出活動等を行いました。福岡市消防局は、統括指揮支援隊や福岡県大隊の一員として熊本県での活動にあたりましたが、現地の被害状況は私たちの想像をはるかに超えるものでした。そのような中、各地から消防隊が集まり一丸となって任務を遂行する姿には、とても頼もしく感じるとともに、非常に感銘を受けました。

被災された方には謹んでお見舞い申し上げますとともに、亡くなられた方には心よりご冥福をお祈り申し上げます。新型コロナウイルス感染拡大の影響により、ボランティアの受入なども困難な状況ですが、被災した地域の一刻も早い復興・復旧を願っております。

最後に、新型コロナウイルス感染拡大への対応ですが、福岡市消防局におきましては、全救急車にオゾンガス発生機とアイソレーターを配備するほか、隊員の装備にも万全を期しております。また、当分の間、収束が見込めないコロナ禍において、いわゆる「新しい生活様式」を踏まえ、消防も様々な変化をしていかねばならないと思っております。大幅に減少している救急件数などを踏まえた対応をしなければなりませんし、また、各種訓練、救命講習や防火管理講習なども以前と同じような状況での実施は困難な状況にあります。このことから、この時代に合った対応を鋭意検討しており、早急に各種施策に反映しなければならないと考えております。

全国の消防本部におかれましても、感染防止対策を図りながら懸命に活動されていることと思います。これからも感染拡大の動向を見据えながら、私たち消防も一丸となって「Withコロナ時代」を乗り越え「Beyond コロナ」を迎えましょう。